

特集 子どもの居場所づくり

地域でつながる みんなの笑顔

近年、全国的に広がりを見せている子ども食堂。家でも学校でもない、子ども自身が安心して過ごすことができる「新たな居場所」として注目されています。今回は、市内でも活動の広がりを見せている「子どもの居場所」づくりについて紹介します。

図 保護管理課 ☎ 861・5193

「子どもの居場所」って
どんなところ？

みんなで一緒に食事や宿題をしたり遊んだり、地域の人と繋がりがながら安心して過ごせる場所が「子どもの居場所」です。主にNPO団体や地域住民のボランティアで運営しており、活動の形は様々です。

どの居場所も共通しているのが「誰でも気軽に訪れることができる」ということ。生活環境に関係なく誰でも温かく迎える、それが「子どもの居場所」です。

また、子どもに限らず幅広い年代の人達の交流拠点でもあり、居場所を軸に地域の人達が繋がることで一体感も高まります。

子どもを中心に「子どもと子ども」「子どもと大人」「大人と大人の世代を超えた温かな関係がこころでは育まれています。



多世代交流



見守り・気づき



体験活動



学び・学習支援

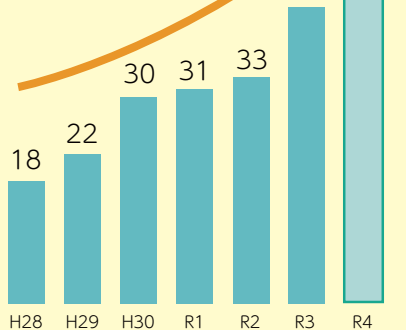


食事・食育

広がる支援の輪

市内の子どもの居場所は、平成28年から子どもの居場所支援が始まり、地域のみなさんの協力で50か所に増えています。さらに、毎年企業や個人から運営団体へ多くの食材や物資が届けられています。このように、子どもの居場所を支える運営団体、そしてその運営団体を支える企業と、多くの人達による支援の輪が広がっています。

なは子どもの居場所
ネットワーク
登録数の推移



子どもの居場所づくりをサポート

那覇市社会福祉協議会では、食材の提供や子どもの居場所づくり、子どもや世帯の支援を目的とした寄付を受け付けています。最近では、売り上げの一部が寄付される「寄付型自動販売機（アサヒオリオン飲料）」の設置も増え、市民や企業のみならず、市民や企業の輪が広がっています。



問 那覇市社会福祉協議会 ☎ 098-857-7766



余っている食品は 郵便局へ

今年7月に子どもの貧困対策を推進するため、那覇市・郵便局・社会福祉協議会の三者が協定を結び「フードドライブ」の取組を開始しました。市内36か所の郵便局を拠点に、窓口を設置するフードボックスにて食品の寄付を受け付けています。ご家庭に余っている食品がありましたら、ぜひ郵便局のフードボックスへご提供ください！

フードドライブの流れ



▲郵便局に設置されているフードボックス

※食の安全確保のため、受付できる食品には条件があります。詳しくは右記QRコードよりご確認ください。



楽しいがいっぱい

ここでは、本を読んだりゲームや動画を見たりなど、過ごし方はみんなそれぞれです。月に1度、様々なイベントを企画していて、今年6月に開催したタコのカルパッチョ作りでは、タコの生態についても学び「タコの心臓は沢山あるんだね」と、新しい発見があったようで、みんなとても楽しそうでした。他にも、おはし作りやSUP体験など、子どもだけでなく親子で参加できるイベントも実施しています。

子どもの居場所「にじの森文庫」をのぞいてみたよ！



金城 辰美 館長

日本財団が実施する「子ども第三の居場所」事業の支援を受け、子どもの居場所活動の輪を広げています。

地域で見守り、育てる

そうすることで、考える力を身に付けるだけでなく、自分が今置かれている状況を相手に発信する練習にもつながります。

活動を始めたばかりの頃は、色々な意見をもたうこともありましたが、地域の行事に積極的に参加し、関係を築くことで、にじの森文庫の活動を知ってもらえるようになりました。今では、通りがけに「今日手伝うことある？」と立ち寄ってくれる方もいて、色んな人たちに支えられているんだと日々感じています。

子ども食堂という貧しい家庭の子が行くというネガティブなイメージを持たれがちですが、「そうじゃないんだよ。いつでも誰でも気軽に来たいんだよ」ということを多くの人に知ってもらい、地域に根差した場所にしていきたいです。

